



# 「元気な“とちぎ”づくりを目指して」

栃木県知事 福田 富一

## 平成二十一年度県政運営の基本方針

### ▼財政の健全化に向けて

本県財政は、三位一体の改革や景気悪化に伴う税収の大幅な減少に伴い、財政調整的基金が底を突く見通しであるとともに、今後、毎年度、三百億円を超える財源不足が生じる見込みとなっております。

そのため、「財政再生団体」への転落を回避し、県民の安全安心の確保、社会的弱者への支援、新たな行政ニーズへの対応などに引き続き取り組むため、改めてゼロベースの視点に立ち聖域なく事業の廃止・見直しを進め、徹底した選択と集中に取り組むこととしました。

本年五月に、今年度から平成二十四年度までを集中改革期間とする「とちぎ未来開拓プログラム（試案）」を公表したところですが、職員数の削減や給与カットなど内部努力を徹底してもなお、県民に御負担をお願いせざるを得ない状況であります。

現在、県議会、市町村、各種団体、そして県民の皆様とさまざまな機会を通して協議を行っているところであり、本年九月には、成案としてプログラムを取りまとめ、一日も早く財政健全化を成し遂げる覚悟であります。

### ▼次期総合計画について

県総合計画「とちぎ元気プラン」が平成二十二年度をもって期間を満了します。本県を取り巻く状況は、第二期地方分権改革

が本格化する中で、経済活性化に全力で取り組みながら、財政健全化を図るといふ、極めて困難な県政運営を余儀なくされておりますが、こうした時こそ、本県の目指すべき将来像を描き、県政の基本目標を明らかにしていくことが重要と考え、平成二十三年度からスタートする次期総合計画の策定に着手しました。

## 「無名有力県」から「有名有力県」へ

### ▼ブランド化の取組について

本県は、県民所得が全国七位、世界遺産の日光、そして全国一のいちごなど、その実力に比して、残念ながら知名度が高くありません。本県が有する数多くの特色ある地域資源を磨き育て、地域ブランド力をアップさせ、「とちぎブランド」として全国に情報発信することで、「無名有力県」から「有名有力県」へと転換を図っているところです。

特に、昨年度から「とちぎ食の回廊」として、地域の食材を活用し、さまざまな地域資源を連携させた魅力ある街道づくりに取り組んでいるところです。全国一位の生産量を誇るいちごをメインとした「とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道」、全国二位の生産量の生乳を活用した「那須高原ミルク街道」、漁獲量全国二位のあゆを活用した「那珂川あゆ街道」、そばやラーメンを活かした「足利佐野めんめん街道」など総延長三百六十kmに及ぶ九つの「食の街道」

がこれから開通して参りますので、是非、多くの皆さんの来県を期待しています。

また、今年度から、県内外で活躍している方に「とちぎ未来大使」となってもらい、全国一のいちごの写真を載せた名刺を作成してお渡しし、それぞれの皆さんの活躍の場において、とちぎの魅力・実力をPRしていただくことにしました。本県出身の音楽家「渡辺貞夫」さんやお笑いコンビ「U字工事」さん、プロ野球選手の「渡辺俊介」さんなど約二百名の方をお願いする予定です。

### ▼開かれた県庁を目指して

本県は、昨年一月にオープンした新県庁舎を活用し、広く県民に親しまれる県庁を目指して、様々な取組を行っています。

本館一階にある県民ロビーを活用し、定期的に「マロニエ県庁コンサート」を開催しているほか、毎月十八日の「とちぎ地産地消の日」に「けんちょうde愛ふれあい直売所」を開設し、毎回、数多くの県民の皆様にお越しいただいております。さらに、本年四月には、敷地内に移転保存してある旧県庁舎「昭和館」において、初めて結婚式が行われ、話題となったところです。

また、四月一日には、県民の憩い交流の場として、県民参加の各種イベントなど多目的に利用できる屋外の県民広場もオープンしたところであり、今後とも「広く県民に親しまれる県庁」を目指して、県民とのふれあいを工夫していく考えです。